

週 報

こひつじ

第41巻 16号
 大津キリスト教会
 菊池郡大津町室 119
 TEL 096-293-4470
 FAX 096-293-4961
 牧師 米村 英二

新しい戒めとしての愛

その三 すべての垣根を越えた愛

新しい愛の第二の特徴は、その階級は取り除かれ、人はみな神の広さにある。

天の父が、悪い人にも良い人にも太陽を上らせ、正しい人にも正しくない人にも雨を降らせてくださるように、その愛もまたすべての人に向けられた。

したがって、その愛は、あつとけでなく、永続性があつた。いうまに、国境を越え、民族の垣根を越え、ユダヤ人から、ギリシヤ人、ローマ人へと伝えられ、やがて世界に満ちた。

しかも、その愛によって誕生した新社会には、ユダヤ人もなければギリシヤ人もなかった。奴隷もなければ自由人もなかった。男もなければ女もなかった。すべての

絶えることがない。

神を礼拝するために教会につどえば、そこには交わりがあり、祈りがあり、お互いを労り合う愛がある。

だれにもこういう社会が必要なのではないか。職場や学校、家族という社会だけでなく、神を中心とする教会という社会、すべての人がその一員となることのできる社会が。

そうでなければ、孤独・孤立に陥る人たちは増えてゆくだろう。

内閣府が二〇二三年に一六歳以上を対象に実施した調査によると、「孤独感がある」と答えた人が四割に上るそうだ。とくに会社しか居場所のなかった人たちは、退職後、孤独・孤立を深める可能性が大であるという。

長女の真紀が高校生のとき、修学旅行でスキーに出かけた。班分けがあり、たまたま彼女の班は七人になった。

バスに乗るにも、スキーのリフトに乗るにも二人ずつだ。当然ひとりはずされる。そのひとりになるのがみんな恐い。それでバス

に乗るときは、できるだけ早く連れかとペアを組もうとする。みんな必死だ。

そのうちに彼らは互いに傷つき、最後の宿で「ワーツ」と泣き崩れた。それぞれが自分のことだけを心配し、ひとりになる人の気持ちを考えようとしなかったからだという。

そのとき級友たちが長女に言った。

「真紀ちゃん、どうしてそんなに強いのか」

そう言われて彼女は思った。自分だってひとりになるのはとてもつらかった。でも、たとえ学校では孤独でも、自分には家族がいる。さらに教会の人たちもいると。

多くの子どもにとって社会は学校だけだった。ところが長女には、学校の交際が全部ではないのだという気持ちがある。どこかにあつた。それで自分が精神的に自立しているようにみんなの目には映ったのだらうと彼女は思ったと言う。

この教会こそは、新しい愛によって生まれた新社会だと言ってよいのではないだろうか。

日本ではまだ、この社会の規模は小さい。が、アメリカではそうではない。

長女がアメリカに渡って久しいが、さびしくて日本人との交流を求めるかという、そうではないらしい。

彼女には常に教会があつた。

今、通っている教会には礼拝を導くオーケストラがある。彼女はそこでチェロを弾く。

彼女にとっては、毎週の教会での音楽の奉仕やキリスト者の交わりが大きな支えになっている。大津の教会も、そういう交わりを日本の社会に提供する存在でありたいものだと思う。(続)

今日の礼拝

○第一礼拝は午前一〇時、第二礼拝は午前一一時から。

○教会学校は午前一〇時から。

○説教は米村牧師。

召天者記念礼拝の報告

○林田はるかさんの司会によつ

て始められ、興梠みゆきさん、西岡なおみさんの特別賛美がありました。

○説教は、米村牧師が、「このように多くの証人(先に召された人)たちが、雲のように私たちを取り巻いているのですから、私たちも、・・・私たちの前に置かれている競走を忍耐をもって走り続けようではありませんか」(ヘブル 一二の一)と語りました。

○礼拝参加者は九三名(男三六、女五七)。それに子どもが一名。合わせて一〇四名でした。そのほか亡くなられた方のご家族が二〇数名おいでくださいました。

○礼拝後は、教会墓地に移動し、追悼式を行いました。墓地の石板に刻まれた方がたの総数は五一名。身近な方がたの名前を見ながら、お元氣だった頃のことをそれぞれ思い起こされていたのではないのでしょうか。

YouTube ♪

礼拝をい覧になる方へ

大津教会における毎週の礼拝

はYouTubeでい覧になれますが、五月から、アカウントが「熊本県大津キリスト教会オンデマンド」から「熊本県大津キリスト教会」に変わります。ぜひ、ご視聴ください。

お便り

一

先生の日常は、週報を通して伺っております。妻も私もおかげさまで元気に暮らしています。

私たちの日々はというと、私は詩篇の暗唱に、妻は、送ってくださった先生の説教CDを聴く生活を送っています。

私はすでに五〇篇を暗唱しました。詩篇全体の三分の一です。せっかく覚えたので、忘れないように毎日おさらいをしています。

妻のほうは、家事をすませ、毎日午前一〇時頃には、先生の説教を聴き、あとは暇さえあれば、先生の本を広げています。送っていただいた八冊の本を繰り返し読んでいます。もう何回読んだでしょう。また、ヒルティの本も愛読

しています。以上が私たちの日課です。(愛知県在住の方)

二

お手紙と週報をいつもありがとうございます。

ジョン・ボストロム宣教師が天に召された記事を拝読して、私は存じ上げていないのですが、悲しくて残念に思いました。

人格的にすばらしく、愛のかたまりのような方でいらしたのに、わずか五九歳で突然、御国にいかれるなんて、無念でなりません。ご家族の痛みはいかばかりでしょう。

熊本地震でまっさきにかけたてくださったのもジョンさんだったのですね。涙がでます。

週報はいつも恵まれ、一気に読ませていただきます。また『イエスの処方箋』もやさしい語り口ですが、深い内容で感動しています。友人にも送りました。喜んでくれています。(北海道在住の方)

牧師のメールアドレス

yonemura@ja2.so-net.ne.jp